



しまね文化ファンド
助成事業

松江が生んだ偉大な美術史家を知っていますか？

相見香雨

没後五〇年記念
シンポジウム関連展示



出品目録

No.	作成者	資料名	年代	員数	所蔵館
【第一章】父・相見文右衛門と祖父・森脇忠兵衛					
1	瀧川伝右衛門	「御囃子日記」	(一) 天保12年～万延元年 (二) 万延2年～元治元年	2冊	島根県立図書館
2	木佐愛造世久	「二世木佐愛造世久経歴控」(新木佐家文書267)		1点	島根県立図書館
3	相見滌雨	『蘆花浅水処印叢』	明治24年	3冊	九州大学中央図書館
4	中村準撰文	「相見滌雨碑」(『松江市誌』昭和16年刊所収)	明治24年建碑	1冊	個人蔵
【第二章】近代松江における漢詩文化					
5	湖南信天吟社編	『碧雲一朶』	明治12年	1冊	個人蔵
6	横山耐雪編	『出雲詩綜』	大正8年	1冊	島根県立図書館
7	河野天麟	『淡成舎遺稿一斑』乾坤	明治44年	2冊	個人蔵
8	雨森薫編	『雨森精翁五十年録事』	昭和7年	1冊	個人蔵
【第三章】松江藩と豪商たちのコレクション					
9	陶斎尚古老人	『古今名物類聚』箱共(松平不昧書入本)	寛政元年～9年	18冊	島根大学附属図書館桑原文庫
10	中川次郎	「不昧公御旧蔵古今名物類聚伝来書」	大正6年	1通	島根大学附属図書館桑原文庫
11	相見繁一編	『群芳清玩』第3冊、第6冊	大正2年、7年	3冊	京都工芸繊維大学附属図書館
12		「御道具帳」(乙部家文書11-7)	年不詳	1冊	個人蔵、松江歴史館寄託
13		「雲州乙部家蔵幅目録」	年不詳	1冊	島根大学附属図書館桑原文庫
14		「雲藩家老乙部家道具帳」	大正10年頃	1冊	島根大学附属図書館桑原文庫
15		「第老回美術品展覧会出品中宮内省参考品となりし美術品目録」	明治24年	1冊	島根大学附属図書館桑原文庫
16		『第一回新古美術品展覧会出品目録』1～6号	明治24年	6冊	島根県立図書館
【第四章】美術史家・相見香雨の誕生					
17	大村西崖編	『東洋美術大観』5巻	明治42年	1冊	九州大学文学部
18		「渡欧の相見編輯員」『美術之日本』2巻5号	明治43年5月	1冊	個人蔵
19	相見繁一	「審美書院出版物の英国に与へたるインプレッションの一例」『美術之日本』2巻11号	明治43年11月	1冊	個人蔵
20	相見繁一	『美術叢書四 池大雅』	大正5年4月	1冊	個人蔵
21	相見香雨	「抱一上人年譜稿」『日本美術協会報告』6輯	昭和2年12月	1冊	個人蔵
22	相見香雨	「宗達の仙仏画と「仙仏奇蹟」」『大和文華』8号	昭和27年12月	1冊	島根県立美術館
23	相見香雨	「深江芦舟の墳墓発見をめぐる」『大和文華』31号	昭和34年12月	1冊	島根県立美術館
24	相見はま	「相見香雨の一周忌に」	昭和46年6月28日	1冊	個人蔵

相見香雨没後五〇年記念シンポジウム関連展示

- ・主催／桑原羊次郎・相見香雨研究会
- ・共催／島根大学法文学部山陰研究センター
島根大学附属図書館
- ・助成／公益財団法人いづも財団
公益信託しまね文化ファンド
- ・後援／美術史学会・明治美術学会

【解説文】

村角紀子(桑原羊次郎・相見香雨研究会代表)

【表面使用画像】

- 右上：雨森薫編『雨森精翁五十年録事』昭和七年刊口絵
- 右下：陶斎尚古老人『古今名物類聚』寛政元年～九年刊、島根大学附属図書館桑原文庫蔵
- 左上：胡鉄梅「蘆花浅水処之図」、相見滌雨「蘆花浅水処印叢」明治二四年刊所収、九州大学中央図書館相見文庫蔵
- 左下：「雲州乙部家蔵幅目録」、島根大学附属図書館桑原文庫蔵

【展示・シンポジウムに関する問合せ】

桑原羊次郎・相見香雨研究会事務局
〒六九三〇〇〇六四 島根県出雲市里方町九七三一一
メール kuwabara.aimi@gmail.com
島根大学法文学部山陰研究センター
〒六九〇〇一八五〇四 島根県松江市西川津町一〇六〇
電話 〇八五二一三二一九八三三
メール admin-src@soc.shimane-u.ac.jp

【開館時間・アクセスに関する問合せ】

島根大学附属図書館
〒六九〇〇一八五〇四 島根県松江市西川津町一〇六〇
電話 〇八五二一三二一六〇八六
メール sabisu@lib.shimane-u.ac.jp

令和2年

11月20日 [金]
12月20日 [日]

*開館時間：平日／8時30分～21時30分
土日／10時00分～17時30分
会期中無休

島根大学附属図書館 1階展示室

入場無料

*新型コロナウイルスの感染拡大状況により、会期・開館時間変更となる可能性があります。詳細については島根大学附属図書館HPで最新情報を確認下さい。

松 江が生んだ美術史家・相見香雨の没後五〇年を記念し、シンポジウムと展示会を開催します。相見は生涯独学の人でしたが、古美術の素養形成にあたっては、家系と地域文化が深く関わっていたと考えられます。そのルーツをたどってみましょう。

相見香雨

本名 繁一^{はんいち} 一八七四—一九七〇

明治七年一二月一日、松江市魚町の商家・相見家（野波屋）の長男として生まれる。十代で両親とも没し、親戚にあたる岡崎運兵衛方に寄寓。修道館を経て島根県尋常中学校へ進学、ラフカディオ・ハーンに英語を学ぶ。東京専門学校（現・早稲田大学）文学科撰科卒業後、帰郷し『松陽新報』編集者となる。明治四一年、審美書院に入社し、美術書の史料収集と調査にあたる。明治四三年、日英博覧会出店のため渡英し、一年半滞欧。帰国後、芸海社（後に精芸出版に合併）で美術書編纂にあたり、後に日本美術協会嘱託となる。生涯在野の美術史家として実証的研究を続け、琳派・文人画・絵本画譜を中心に多数の編著書を発表した。昭和二七年、文化財保護委員会美術工芸部門専門審議会委員に就任。昭和三六年、紫綬褒章、勲四等旭日小綬章受章。昭和四五年六月二八日、東京の自邸「飛鳥山房」で没、九六歳。



昭和26年、相見香雨76歳
関家提供

【第三章】

松江藩と豪商たちのコレクション

松江で「コレクション」といえば、まずは七代藩主・松平不昧による茶道具収集、そして彼が編纂した名物図説『古今名物類聚』が挙げられます。一方、松江藩家老・乙部九郎兵衛十代可時の中国絵画コレクションも、かつてはこれに劣らず著名であり、「乙部家蔵幅目録」は各地で筆写されました。相見香雨も「総門雲煙集」と題して翻刻紹介しています。明治期以降、これらは散佚してゆきますが、新たな所蔵者の顔ぶれからは、美術文化愛好の風土を受け継ぎ支えた町の人々の様子がうかがえます。



陶斎尚古老人『古今名物類聚』18冊（松平不昧書入本）
寛政元年～9年刊
島根大学附属図書館桑原文庫蔵



「雲州乙部家蔵幅目録」年不詳
島根大学附属図書館桑原文庫蔵

【第一章】

父・相見文右衛門と

祖父・森脇忠兵衛

相見香雨の祖父は、松江白濁の豪商・森脇三家のひとり古森家の森脇忠兵衛十世元照（号松陵）で、江戸末期に白濁大年寄をつとめました。父・文右衛門はその三男で、幼名は庫三郎、諱は敏修、字は允叔。一八歳で相見家へ養子入りました。淞雨と号し、書画に優れ、胡鉄梅はじめ清朝詩人來松の際は世話役をつとめました。松陵と同じく篆刻を最も得意とし、印譜『蘆花浅水処印叢』の題辞には「龍手」と称えられています。



胡鉄梅「蘆花浅水処之図」
『蘆花浅水処印叢』明治24年刊所収 九州大学中央図書館相見文庫蔵



相見文右衛門刻 三条実美印
「実美之印」「梨堂」白文方印
『蘆花浅水処印叢』明治24年刊所収 九州大学中央図書館相見文庫蔵

【第四章】

美術史家・相見香雨の誕生

相見香雨が美術史家の道を歩むきっかけとなったのは、明治三九年頃、東京から審美書院主幹の田島志一が雲州松平家所蔵の不昧公名物撮影のために来松したことでした。約一ヶ月に及ぶ調査を手伝った相見は田島と懇意となり、「入社予約」をします。明治四〇年、審美書院に入社し、『東洋美術大観』はじめ同社の代表的美術書において史料収集と調査を開始します。以後も作品と文献、現地調査を重視する実証的研究により、日本美術史に多くの新知見をもたらしました。



明治43年(1910)
日英博覧会出店のため
ロンドン滞在中の審美書院一行
(左端に相見香雨、右端に田島志一)



相見香雨「抱一上人年譜稿」
『日本美術協会報告』6輯
昭和2年12月刊

【第二章】

近代松江における漢詩文化

松江は江戸末期から明治大正期、さらには昭和前期にかけて、東京・名古屋と並ぶ漢詩創作の中心地でした。漢詩の伝統は河野天鱗や雨森精翁ら学僧・藩儒から、村上琴屋や横山大雪ら新世代へと受け継がれ、明治三六年には全国規模の漢詩結社「剪淞吟社」が結成され隆盛期を迎えます。こうした出雲漢詩壇の活況は士族層ばかりでなく豪商・豪農にも及び、機会あるごとに漢詩集が刊行されました。相見淞雨も雨森精翁門下であり、なかなか優れた詩を残しています。



湖南信天吟社編
『碧雲一朵』
明治12年刊



雨森精翁の還暦を祝う出雲漢詩壇の人々
明治15年5月撮影
(前列左から3人目に雨森精翁、後列左から4人目に相見文右衛門)
『雨森精翁五十年録事』口絵 昭和7年刊

相見香雨没後五〇年

記念シンポジウム

ZOOMを用いたオンライン形式で開催します。
参加無料（先着一〇〇名まで）

令和2年12月6日（日）

午後1時30分～4時30分

司会：田中則雄（島根大学法文学部教授）

林みちこ（筑波大学芸術系准教授）

報告者：

①村角紀子（桑原羊次郎・相見香雨研究会代表）

②要木純一（島根大学法文学部教授）

③玉蟲敏子（武蔵野美術大学造形学部教授）

④日本の近世美術史における

相見香雨の業績と現代的意義

【参加方法】①②いずれかの方法でお申込み下さい。受付完了後、メールにて参加用のURLとパスワード、当日プログラムを返信いたします。 〈締切：12月4日（金）〉

①インターネット申込み専用フォーム

「相見香雨没後五〇年記念シンポジウム参加申込」

<https://forms.gle/8Q31atUEmNvthvye6>



②電子メール

桑原羊次郎・相見香雨研究会事務局

アドレス kuwabara.aim@gmail.com

件名に「相見シンポジウム参加申込」、本文に「参加者氏名」と「返信用メールアドレス」を必ずご記入下さい。

※送信いただいた個人情報は本シンポジウムの目的以外には使用しません。